

お客様紹介

## 大阪バス株式会社 様

(ISO9001:2015認証登録)

【取材者】 審査員 美濃 英雄  
Hideo Mino

大阪バス株式会社様は、グループ全体で、400台を超えるバスを保有される業界のリーディングカンパニーです。北海道から沖縄の各グループ会社により、全国規模にて高速バスと地元定期路線を運行されています。新型コロナウイルス感染症対策として、車内消毒に加え、全車両に除菌イオン発生機を搭載、走行中は新幹線と同レベルの換気、シート・カーテンには抗ウイルス生地を採用するなど快適な車内環境を提供される一方、タクシー会社5社をM&Aされドライバーの雇用の維持にも努められています。

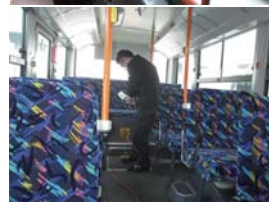
「お客様おひとり、おひとりの大切な命をお預かりさせていただく」という安全性を、仕事を行う上で最重要課題に定められており、そのために「決して妥協はしない」ということを、当たり前の企業風土にされ、マネジメントシステムに取り組まれています。

先日、同社は、大阪のローカルTV番組の「ライバル企業対決」コーナーに出演されました。番組では、同社と兵庫県最大



高速バス車両

手の神姫バスより、腕自慢ドライバー各1名が代表参加し、障害物、ブレーキ、駐車3つの競技にて運転技術を競いましたが、どの競技も神業レベルで、車庫入れなど普段の技術に活かされているようです。審査でも、整然と車庫入れされるドライバーに見とれてしまったくらいです。賞品の「黄金のハンドル」は、事務所に飾られていました。



車内消毒作業

コロナ禍での厳しい状況が続いていますが、同社が目指されている「世界一のサイトシーイングカンパニー」へ向けて、さらなる発展を期待したいと思います。

<http://www.osakabus.jp/>

連載  
よみもの

## 審査員の心理

第32回（環境編）

### 「リモート審査」

環境主任審査員 大村 敏夫  
Toshio Omura

今回は、コロナウイルスの感染拡大という状況下での審査について雑感を述べさせていただきます。このコロナ禍で、組織の働き方を見直さなければならない課題は多々生じているかと思いますが、審査への対応もその一つでしょう。

審査の実施にあたって、他の地域から審査員が訪問することに不安を感じられているお客様もありました。審査員としては、感染しない、万が一感染していたとしても感染を拡大させないことを心がけ、毎日の体調確認、審査中はマスク着用を徹底しています。PCR検査を受けたこともありますが、検査で陰性であっても、その後に感染する可能性はあり、気を緩めるわけにはいきません。日常生活の中でも、三密を避け、黙食の励行など感染予防に心がけています。これは審査員としてということでは無く、コロナ禍に直面した人々に共通する留意事項でしょう。

審査に関しては、リモート審査をご希望される組織もありますが、リモート審査が可能な条件があり、希望すれば無条件でリモート審査に変更できるものではありません。事務所にご相談下さい。リモート審査が可能な場合でも、リモート審査特有の課題があります。まずは、通信手段などのハードウェアが整備されているかということで、会議室などとの接続はできても、現場視察で移動しながら、途切れることなく画像を送ることができるかが審査では重要となります。ハード面で整備されていても、使用するリモート会議システムに組織側の関係者と審査員の双方が習熟していることも必要になります。特に、関連する資料の閲覧ができることが必要で、資料をカメラで写されても読み取れないこともありました。電子的文書類なら画面共有機能で表示する方法もありますが、小さい画面で読み難い、審査員が表示画面を操作できない、というもどかしさを感じることもありました。リモート審査を実施するにあたっては、事前にテストを実施するようにしています。テストの結果、問題が検出されたら対策を講じて再度テストを繰り返すこととなります。リモート審査では、審査を受ける組織側で準備いただくことが多く、ご協力をお願いしています。